

協定校への留学 留学報告 2015

 愛知県立芸術大学

目次

ロンドン芸術大学(イギリス) 鵜飼聡子さん	1
ケルン音楽大学 (ドイツ) 酒井黎子さん	9
リスト音楽院(ハンガリー) 千葉彩奈さん	21

ロンドン芸術大学(イギリス) 留学報告 Vol.1

美術研究科博士前期課程 油画・版画領域 鵜飼聡子さん

大学について

○授業・カリキュラムについて

各留学生はポートフォリオ審査を経て4つの専攻に振り分けられます。2D,3D,4D,XD という種類があり、私は 3D へ入ることが決まりました。その後、1グループ15名のチューターグループ3つに振り分けられ、基本的にはそのチームごとに授業が行われます。ちなみに各チューターグループに1人留学生が入るというシステムです。以外にも Fineart はアジア人が少ない印象で、私のグループは私を含め2人で驚きました。実はまだ始まって一週間ほどで、基本的には各ワークショップの使い方説明の授業が多いです。ただ、始まって4日目に朝から夕方までのプレゼン兼ディスカッションの授業があり、プレゼン資料を用意したりなど、慌ただしく過ごしておりました。



○言語について

当たり前ですが、日本語を使う場面がありません。私は心配だったので少しだけ語学学校に通いましたが、大学は語学学校とは比べものにならないほどの語学力が求められます。正直理解できない場面が多いですが、会話で出てくるアーティストや哲学者、研究者など、皆の中で前提となっている知識をひたすら調べて知ることが一番理解の助けになると考えているので、努力あるのみです。Language Centre という組織が週に一度言語の授業を開いてくれるので、これから毎週通う予定です。

○大学からのサポートについて(留学生に対して)

日本語を使う人はおらず、初めの3日は膨大な量の大学カリキュラムの情報や、授業の登録の仕方、たくさんある組織(数学センターや語学センターなど)を理解することだけで精一杯という状況でした。ただ、入学前に welcomeday という留学生対象のイベントがあり、すべてのロンドン芸大の留学生が集まったこともあり、同じ大学の友人を作るのにはとても良い機会でした。大学が大きいので、小さな問題は大体フルタイムの生徒に聞いたりすることが多いです。大学の職員は怖いですが、チューターの先生方はとても優しいので、質問をしたらちゃんともう一度説明してくれます。留学生だということで特別扱いされることはほぼ無く、かえってそれは突っ込んだ経験が初めからできるという意味で、とても刺激的です。



留学中の生活について

○滞在都市の環境・様子

ロンドンは思い立ったときに良い展示や作品がすぐに見に行けるという点で素晴らしい場所です。先日は Freeze Artfair に行き、知っているアーティストや有名なギャラリストがたくさんいたり、その場の雰囲気には圧倒されました。ただ、もちろんそういったものとは正反対に、街中ではたくさんのホームレスの方を見かけます。その落差に戸惑うことも多々あります。治安について、初めの2週間、かなりの広範囲を歩いて回りましたが、それほど治安が悪いと思う場所はありませんでした。ちなみにこちらの食材は安いので、自炊すれば日本より食費は安くすみます。日本のように飲み会の割り勘制度もないため、お金を気にせずフランクに PUB にいくことができます。ただ、交通費が恐ろしく高いので、新しいフラットは徒歩圏内の場所を探しました。

○オススメ

無料の美術館が多く、それがなによりもすごい点だと思います。(ロゼッタストーンやファンアイク兄弟の名画が無料で見られます！)また、教会や大使館でもたくさんのコンサートや展示が開かれていたり、イベントも必ずどこかでたくさん行われており、芸術面では本当に恵まれた環境だと感じています。



○注意すべき点

限られた予算で、生活費を計算しながら使わなければいけないことでしょうか。一度大学内でパスポートをなくした事件がありましたが、大事なものに対してちゃんと神経をつかうことなどを気をつけていれば大丈夫です。空気や水が違うので、1日で髪と肌がボロボロになりましたが、こちらで教えてもらった方法でケアをしたらすぐに治りました、日本との違いを楽しむ余裕があれば特にはないと思います。

○加入した保険について

大学の学研災付属海外留学保険というものに入りました。これが一番安く、また大学で加入できるもので、手続きがほとんど必要ないので楽でした。ただ、こちらの大学で、CSMの生徒であれば医療サービスが受けられる、というのがあり、もしかしたらもっと安く済ませる方法があるのかもしれませんが。

○滞在先について

大学の寮はとても高いので、寺内先生の友人の友人という方のお宅にお邪魔し、フラットメイトとして1ヶ月過ごしました。ただ、その滞在中に2つめのフラットを探す、というのが想像以上に大変でした。現地の情報サイトで宿を探していましたが、常識外れな対応をされることや、下見に行ったら宿に難点があったりなど、宿探しは思うように進みませんでした。しかし、やっとジャマイカ人でイギリス出身の女性のフラットに転がり込むことができ、ホッとしております。ここから大学へは徒歩20分以内で、最高の物件です。

○留学費用について

すべての留学生は、月 1,030 ポンド以上所持している証明がなければ、そもそも入国することができません。私の留学が完全に決定したのは5月だったので、奨学金はもう手遅れのものが多かったです。現在は、貸与の奨学金を貯めた分や、留学中継続貸与の奨学金、親や周りの方にお借りしたりと、かき集めたお金で生活しています。感謝の日々です。来年以降の方からは少しでも、大学からの援助が出ることを祈ります。もし Tire4 の正規学生ビザを持っていれば、制約はありますがアルバイトも可能です。他の学生は日本同様、バイトをしながら来ている方も多いようです。

○滞在許可(査証)取得について(注意点、苦労したこと等)

イギリス留学の準備で一番厄介なものはビザの情報だと思います。実は今年の4月にビザの大幅な変更があり、せっかく知り合った先輩方の情報がすでに古く、新しく一から自分で調べる他ない状況でした。こういった変更は頻繁らしく、事前に自分の留学にあったセミナーが必ず東京の British Council というところで行われるので、それが最も新しく、正しい情報だと思います。現在は、半年程度の留学であれば、Short Term Student Visa か Tire4 (IELTS の一定のスコアが必要) のどちらかで留学できます。

ロンドン芸術大学(イギリス) 留学報告 Vol.2

時間か経つのはあっという間で、留学期間も残す所 1 ヶ月ほどとなりました。私は日本では院生でしたが、こちらでは学部 2 年であるため、最初は様々な差異に戸惑いましたが、今では学部生に戻ったと考えて、差異を楽しみながら自分の考えを再構成しています。いままでの期間に、大学で何を経験したかをご紹介します。

<授業に関して>

私が在籍しているのは 5 ヶ月ほどの秋学期なのですが、その期間に留学生か受けられる ”ユニット”と呼ばれる大きな授業が 2 つありました。1つ目は、スタジオでの制作を基軸にしたもので、行動はそれぞれの専攻のチューター、同じチューターグループの生徒と共に行われました。チューターによるオリジナルの授業が幾つかあったり、個人チュートリアルがあったりと、様々なフィードバックが得られる状況が用意された中で作品を作り、グループディスカッションやステイトメント提出を終えて、最後にオープンスタジオで一般公開するというものでした。先生方の授業では、どのように制作の記録を作るのかを、皆でアイデアを SNS でシェアしながら考えたり、対象を捉える際に、どんな手法で記録するのが可能かということや、卓球を通して考えたりと、かなり自由度が高いながらも深く考えさせられるものばかりでした。

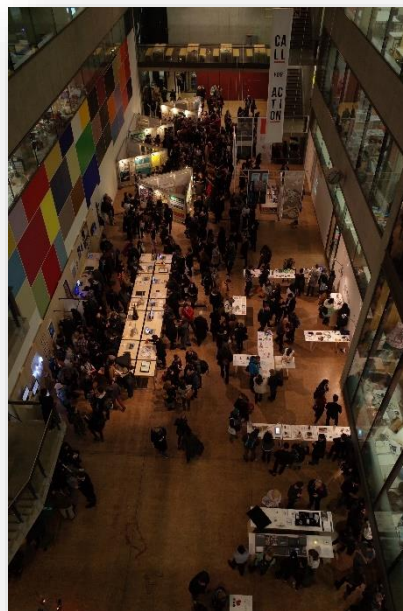


2 つ目は、未だ継続中ですが、およそ二ヶ月にわたり一つの座学を受け、セミナー内でチームを結成しコラボレーション作品を作る授業です。最終的に展示をしたのち、出版物・記録・ステイトメント・エッセイの提出が求められます。2 年生全員が 7 つの座学に振り分けられました。哲学的なものや、身体表現、技術とアートなど、難解なものばかりでしたが、私は幸いにもファンとアマチュア、プロの境目を探る、という一番フランクな授業に参加させていただくことができました。授業には毎週、少しだけ必読書リストとお勧めのビデオリストが出され、それについて次の週にディスカッションをするという流れでした。こちらのファンカルチャーに焦点を当てた生徒の意見に触れる機会に恵まれたことは、日本のものとの差を考える意味でもとても興味深い経験でした。



<月曜のレクチャー、その他のプロジェクトについて>

私が来る前から楽しみにしていた、週一で行われる講演会ですが、やはり素晴らしいものです。私か無知なため、あまり知らない方々ばかりでしたか、初回は今年度のターナー賞受賞者 ASSEMBLE がレクチャーにやってきましたし、有名な編集者のかたや映画コーディネーター、数学者など、幅広い分野の方々の話を聞く機会があります。前回は Susan Hiler、また 2 月には Grayson Perry がくるということで、連続の大物アーティストのお話を皆楽しみにしています。また、ストリートと呼ばれる大学の中央部では、常に何かしらのプロジェクトや展示、イベントが開催されています。大御所アーティストの Gustav Metzger のプロジェクトや、古本市、院生たちの研究発表展など、今までのイベントの内容は多岐に渡りますが、ここで開かれているのは全専攻のイベントなので、ファッションやデザインの学生の作品を見る機会にも恵まれます。



<大学の外の生活>

授業以外では、出不精ながら、できるかぎり動こうとしています。ハロウィンやクリスマス、年末年始などは友人と出かけたり、パーティーに招待していただいたり、外国へいったりと、今しかできないと思い、ひたすら動いていました。驚いたのは、ヨーロッパ圏での移動のしやすさです。こんなに簡単に安く国と国の行き来が可能だとは思いませんでした。また、人生で会うことが絶対ないような全く他分野の方々と、“ロンドンにいる日本人”というだけでたくさんお会いできたように感じます。そこが本当にロンドンという土地の凄いところだと思います。

<他の留学生たち>

ヨーロッパ圏のエラスムス交換留学提携はとても規模の大きいもののようで、ずっと一緒にスタジオで制作していた生徒が突然別の大学に行ってしまったり、突然新しい留学生が来たり、また、同時期に来た生徒も別々の日程で帰国していったりと、頻繁に人の入れ替わりがあります。とはいえ、だからこそ皆その時期にできることに集中しているように見えます。

<語学>

最後に、語学に関してですが、毎週1日開かれる語学の授業は、通常授業にかぶることが多く、あまり満足に受けることができないものです。しかしクリスマス休みに、別校舎において3日間のエッセイライティングの集中講座が開かれていたため出席しましたが、それはエッセイを書いたことがない私にとってはとてもよい機会でした。とはいえ、未だに幼稚な英語しか使えないと感じています。こちらで一番大変だったのは本を読むのに恐ろしく時間がかかること、でしょうか。

現在はユニット6の展示が終わったばかりです。私たちは15人のチームで一つの部屋を作り、私は他の生徒2人と小さなグループとしてパフォーマンスを行いました。これからエッセイや展示記録などの制作が始まります。

おそらく残りの期間はいろいろなものの締め切りに追われるかと思いますが、残りの少ない期間、精一杯有意義に過ごしたいと思います。

ロンドン芸術大学(イギリス) 留学報告 Vol.3

無事に3月2日に帰国し、次第に日本での生活リズムを取り戻しつつあります。帰国したため、これが最後の報告書となります。前回の報告書では、最後の提出物をまとめ上げる段階でしたので、その後どのように過ごしたかをご報告します。

提出物はポートフォリオ、500ワードのステイトメント、3000ワードのエッセイ、コラボレーション作品の記録集とそれについての批評文500ワード...と、英語の弱い生徒は大変努力の必要な内容でした。同級生たちは皆、自宅や図書館、パソコン室にこもりきりになるという美大生らしからぬ(偏見かもしれませんが)生活を送り、それらをまとめあげていました。私も同様に、1月から24時間開館となった大学図書館に遅くまで滞在し、悪戦苦闘を強いられておりました。しかし、帰国後しばらくした頃に、それらの成績・コメント付きの先生からの評価を得ることができました。どこが足りずどのようにすべきだったか、自分のどのような行動が評価されたかという詳細を知ることができるシステムは、とても気持ちの良いものでした。また、それぞれの先生方が、しっかりと一つ一つを添削してくださっているということも実感できました。

提出後は、まだビザに余裕があったため、2週間程余分に滞在しました。その期間は当初、旅行に当てようとかんがえておりましたが、ロンドンで出会った友人たちのお別れ会や、仲良くなった方々との飲み会、お土産を探したり、ロンドン内で行っておきたい場所へ行ったりしている間に、すぐに時間が経ってしまいました。

今回の留学期間は、今までの学生生活のような”作品制作に追われる日常”ではなかったため、美術に対する価値観というものが大きく揺さぶられる経験となりました。また、それぞれの生徒の興味が自然と制作行為に結びついていて、それらは必ずしも美術というジャンルで語られなくてもよいという雰囲気はとてもポジティブで、制作環境としてはとても良いものでした。今後もこの経験を生かして、辛抱強く自分の表現と向き合っていこうと思います。



ケルン音楽大学(ドイツ) 留学報告 Vol.1

音楽研究科博士前期課程 鍵盤楽器領域 酒井黎子さん

留学生活が始まって一ヶ月が経ちました。ケルンは 4 月の中旬頃まで冬のように寒かったのですが、5 月に入って、日中は暖かい日差しが降り注ぐ爽やかな日が続いています。外が夜 9 時近くまで明るいのが新鮮です。

住んでいるところは、去年交換留学された先輩と同じで、ドイツ人のおばあさんと一緒に住んでいます。大学や駅、スーパーなどが近くにありとても便利ですし、喧騒から少し離れた場所にあるので、落ち着いていて居心地が良いです。おばあさんは画家で、4 月末～11 月までフランスのアトリエにおられるため、今は一人暮らしです。ケルンに来たばかりのときに、あらゆることを丁寧に教えて下さり、精神面においても支えて頂きました。

大学のレッスンでは、Gesa Lücker 先生に教わっています。大変明るく優しい先生で、レッスンが終わるといつも前向きな気持ちになれます。レッスンはドイツ語で、非常に表情が豊かな方なので何をおっしゃっているのかが分かりやすく、練習方法やどんな CD を聴いたら良いかなども丁寧に教えて下さいます。クラス内の試演会も頻繁に開かれ、同門生から刺激を受けています。また、室内楽はフルートの子と組んでいます。オリエンテーションのときには既に大半の生徒が組む相手は決まっていて、無事相手が見つかるのか不安でしたが、先生方がピアニストを探している生徒のメールアドレスを何人も教えて下さいました。

語学学校は、平日毎日 3 時間あるので大変です。クラスメイトは皆熱心で、自分がその場で納得するまで質問をしています。大学や語学学校において、様々な場面で国民性を垣間見ることができ、また自分が日本人であることも強く感じるようになりました。日常生活はほぼドイツ語が使われていて、英語を耳にするときはあまりありません。大学でも、ドイツ人以外の人も皆ドイツ語を流暢に話します。私は日本で一年半ほどドイツ語を勉強してきましたが、まだ語学力が全然足りないと感じています。ドイツ語ならではの素敵な表現を身に付け、先生や友人ともっと交流を深めたいと言う気持ちでいっぱいです。

諸手続きについてです。銀行口座の開設をするにあたって質問を色々受けてそれに全て答えなければならないのですが、速いドイツ語で何を聞かれているのか分からず、後でおばあさんについて来て頂いたので無事開設できました。

ビザの申請では、インターネットで外人局の場所を調べて行ったら、別の場所だと言われ、その場にいた外国人の方と一緒に行きました。運良くその方が行き方を知っておられたため、非常に助かりました。また、辿り着いたのは良かったのですが、申請するために必要な書類とは別のものを受付でもらってしまったので、結局外人局には何度も足を運びました。

写真は、家からすぐ近くにある Agneskirche という教会(1枚目)と、大学に行くときにいつも通る公園(2枚目)です。日曜には、この公園で多くの人がバーベキューをしたり、昼寝をしたりしています。



ようやく新生活に慣れて、気持ちにも余裕が出てきたところです。今しか経験できないことを吸収し、留学生活を楽しみたいと思います。

ケルン音楽大学(ドイツ) 留学報告 Vol.2

5月から6月初旬のケルンでの生活についてお伝えしようと思います。

○レッスン

今私は、シューマンの作品を勉強しています。シューマンを弾くときに注意する響きや、身につけなければならないタッチを細かく教えて頂いています。また先生は、練習だけではなく、ドイツ語を学んだり、美術館や居酒屋に行ったりすることなどから、ドイツの文化を大いに学んで欲しいとおっしゃっていました。先生はいつも楽しく、貴重な話題を振ってくださいます。6月の終わりに大学内のクラスコンサートがあるので、それに向けて練習をしています。

○ドイツ語

4月の上旬より、大学近くの駅から二駅ほど離れた語学学校に通っています。私はA2クラスから始め、6月に入った現在ではB1クラスを受けています。平日毎日3時間はとても大変で、終わるといつもヘトヘト、午後のピアノの練習の体力が無いほどでした。そして、やっている文法の内容は理解できても、皆で意見を言い合ったり、先生からの質問に受け答えたりするのに、とても苦勞をしました。勉強のためだと分かっているながらも、自分の考えを主張する機会が今まで少なかったためか、どこか気が引けてしまうことが大きな壁になっていたように感じます。クラスメイトは、イタリア、チュニジア、スペイン、ルーマニア、ケニア、南アフリカ、ペルー、韓国、など世界各国から集まり、彼らの国の習慣などについて知ることができるのがとても面白いです。彼らから、間違えるのを恐れず、とにかく「話す」ことが大事だということを教わりました。それを痛切に感じて以来、大学でも語学学校でも、分かっているふりをせず、どんどん質問するようにしました。そうすることで、人間関係が広まりますし、間違ったところがあれば教えてくれます。まだまだ、思っていることの半分も伝えられない状態ですが、語学は音楽と同じくらい興味深く、自分を成長させてくれるものだと感じています。

○室内楽

私はこの夏ゼメスターの室内楽で、ロシア人のフルートの子と一緒に、マルティヌーとデニソフのソナタを勉強しています。お互いの音楽性が合うので、いつも楽しく合わせをしています。彼女はとても感じが良く、私がドイツ語を話す機会がもっと増えるようにと飲み会に連れて行ってくれたり、いつも私のことを気にかけてくれます。5月の下旬には、室内楽の学内コンサートに出演し、聴衆の方から温かい拍手を頂きとても嬉しかったです。室内楽の授業は、グループごとに教わる先生が決まっています。私たちはピアノ科の先生に教わっています。やはり、ドイツ語が少し障害にはなっていますが、とても良い経験をさせて頂いています。

気候は、30度近くになる暑い日もあれば、朝晩と、雨が降る日は20度以下になり肌寒いです。4月下旬に、一緒に住んでいたおばあちゃんはフランスのアトリエに行かれました。11月下旬までフランスにおられるため、それまでは一人暮らしです。大学の練習室の確保がとても大変で、夜しか部屋が取れず帰りが遅くなってしまうこともしばしばあり、大変なこともあります。楽しんで自炊生活をしています。写真は、学食で出されている料理で、たっぷりですがこれで300円くらいです。



ケルン音楽大学(ドイツ) 留学報告 Vol.3

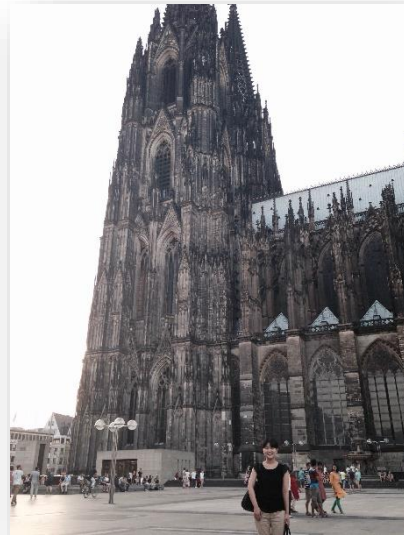
ケルンに来てから早4か月、大学は夏休みに入りました。7月初旬には卒業試験が毎日のように行われており、よく聴きに行きました。ピアノ科のマスター(大学院)の卒業試験は、70分ほどの曲目を準備しなければならないそうで、とても大変そうでしたが、一人一人とても聴き応えのある演奏で、勉強になりました。また、室内楽と一緒にやっていたフルートの子の卒業試験では、彼女が一曲ごとに曲目解説をしながら演奏をされていて、プログラムノートもかなり充実したものでした。科によっては試験というより、お客さんも楽しめるコンサートの雰囲気を感じられました。

6月の初めに、ビザを取得しました。ビザを申請したのは4月の初めで、ビザができたらメールする、と担当の方に言われていたのですが、二か月経ってもメールが来ませんでした。心配だったので直接外人局に行ったら、既にできていて拍子抜けしてしまいました。連絡すると言っても連絡が来ないことはドイツではよくあるらしいです。とりあえず、取得できて一安心です。

6月28日に、リュッカー先生クラスの学内コンサートがあり、私も出演しました。久しぶりのソロのコンサートは緊張しましたが、ドイツで人前で弾ける機会はとても有難く、楽しく弾き終えることができました。ケルン音大の学内コンサートには、一般のお客さんがたくさんみえます。私たちのときも、とても温かい雰囲気の中で聴いて下さいました。ケルン音大で、様々な楽器の学内コンサートや、門下内の試演会を聴いて、各個人がそれぞれにしっかりとした個性を持っていることを強く感じます。また、レッスンでも先生が、「まだまだ大人しいからもっと大きく表現して」というようなことをよくおっしゃいます。個性とはどういうものなのか、一言で言えるものではないですが、自分の曲に対する考えをあいまいにせず、自信を持って伝えられるようになることからまず始めたいと思っています。

冬ゼメスターもリュッカー先生クラスに在籍できることになりました。次に大学が始まるのは10月で、たっぷり時間があり、のんびりと夏休みを過ごしています。30℃を超える真夏日があったり、半袖では寒いと感じる日まで、気温差が激しいですが、カラッとした風はとても心地よいものです。

日本が恋しく感じるときも時々あります。そんなときは日本語の本を読んだり、日本人とおしゃべりしたりしています。また、デュッセルドルフ(ケルンから電車で30分)には日本食品専門店があり、日本の駄菓子まで売っています。ほとんどの品がかなり割高ではありますが…。先日はドイツ料理を食べにレストランに行きましたが、お店の人もお客さんもとても愉快でした。料理の味は濃い目で、食べ応えが充分あります。料理が運ばれてきたら、隣の席のお客さんが、「Guten Appetit! どうぞ召し上がれ!」と言って下さり、とても嬉しい気持ちになりました。日本ではこういう言葉掛けはありませんよね。



またこの夏の時期、ケルン大聖堂では毎週火曜日にオルガンコンサートが開催されています。ケルン大聖堂は、見上げると首が痛くなるくらいの高さで本当に迫力があります。その大聖堂全体に轟々と鳴り響く演奏は圧巻でした。8月にはドイツでマスターコースを受け、冬ゼメスターの室内楽の曲も決まったので少しずつ準備を進めて行く予定です。また、ドイツ旅行もする予定なので、ドイツでの夏を楽しみたいと思います。

ケルン音楽大学(ドイツ) 留学報告 Vol.4

約 2 ヶ月半に渡る夏休みが終わり 10 月から冬ゼメスターが始まりました。夏休みは 2 週間ほどのマスタークラスに参加し、またドイツの様々な観光地を旅行しながら、ゆったりと過ごすことができました。今年のドイツの夏は近年稀な猛暑で、ケルンでも何と 39 度まで上がった日があり、本当に暑かったです。しかし、日本と違って家の中では割と涼しく過ごすことができます。9 月に入るとすっかり秋らしくなり、10 月は紅葉が大変美しい時期を迎えました。



レッスンでは修士試験の曲を見て頂いています。姿勢のことや、レガートをより美しく演奏するための根本的なことから教えて頂いています。Lücker 先生は日本食が大好きで、よく一緒に食べ物のお話をしますし、日常生活のことを先生にお話するのが毎回楽しみです。また、室内楽レッスンのためのデュオを2つ組んでいます。一つは韓国人の子とメンデルスゾーンのエロソナタ 2 番、もう一つは同じく韓国人の子で、フランクのヴァイオリンソナタを弾いています。2 人ともドイツ語が堪能なので話しているだけで勉強になりますし、リハーサルときにはたくさん意見を言ってくれて有難いです。今回も素敵なパートナーに恵まれ、合わせをするたびに仲良くなれている気がするのでとても嬉しいです。

また他の授業では、留学生のためのドイツ語の授業と、Alte Musik、シューマンの人生や曲についての講義も受けています。Alte Musikでは、フォルテピアノやチェンバロに関連すること(作曲家や楽器、装飾記号、調律の仕方、演奏法など)を話して下さいます。もう一つのシューマンの講義は、音源を流しながらシューマンの人生に沿って楽曲を分析し、時代背景などを説明して下さいます。生徒が楽曲についてプレゼンテーションを行うときもあります。どちらの授業も興味深く聞いていますが、難しい単語が頻出するので、おっしゃっていることの半分も理解できていませんが、根気よくついて行きたいと思います。授業中に先生が意見を求めると、みんな積極的に発言し、よく考えているなど感じます。

夏ゼメスターより緊張が溶けて、人と接する機会も増えたので、新しい友達がたくさんできました。最近は何となく人と接することがとても楽しいと感じています。ドイツ語は、生徒同士だとみんな主語が Sie(あなた)ではなく Du(君)で呼び合うため、年齢関係なくすぐ親しくなることができます。年齢がかなり上の人に対しても、知り合っただけで Du で話すようになるので、日本語の感覚と違ってとても面白いです。最近ではドイツ人の誕生日パーティーに何回か誘ってもらって楽しい時間を過ごすことができました。

残り二カ月の留学生活も、有意義なものになるよう、精一杯取り組みたいと思います。



ケルン音楽大学(ドイツ) 留学報告 Vol.5

1年弱の交換留学を無事終えて1月8日に帰国しました。最後の留学報告記を書かせて頂きます。

11月から12月は、ドイツの本格的な冬到来かと思いきや、暖冬で過ごしやすい日々が続きました。11月下旬には、4月に一緒に住んでいたおばあちゃんがパリから戻ってみえて、また2人暮らしが始まりました。その頃は、いよいよ県芸での年明けの修士試験が近づいてきて練習に追われており、ソコのレッスンの他に室内楽のレッスンもたくさん受けていて、学内での本番もいくつかあったので、毎日ハトハトになる日々を過ごしていました。なのでおばあちゃんが作ってくれたご飯を一緒に食べたり、芸術の話をしたりすることはとても心身が癒されました。例えば私が、練習しても上達を感じられなくて困っている、というような話をしたら、「その気持ちはとてもよく分かるよ。すごく時間がかかる作業だから大変だよ。絵画の場合も一緒だから。」とってくださいました。

リュッカー先生のレッスンも段々と終わりに近づいてきて、曲も仕上げの段階に入っていました。私が自分の演奏になかなか満足できないことを、いつも気にかけて励まして下さいました。12月にはヴッパタールという、ケルンから電車で1時間くらいの都市にある校舎で、クラスコンサートが行われ、それに向けてクラス内の試演会も頻繁に行われていましたので、一人ずつ、良いところも悪いところも意見を言い合うことがとても勉強になりました。



そして何より、ドイツでの最大のイベント、クリスマスも楽しみました。あちこちで開かれているクリスマスマーケットは、イルミネーションが本当にきらびやかで、日本でいうお祭りの屋台のようなものが多数並んでいて、みんなグリューワインやソーセージを食べながら愉快地楽しんでいました。私はホットチョコレートを飲んだり、木で作られたとても可愛いオーナメントや手作りの石鹸を買ったりしました。写真は、下宿に飾ってあったクリスマスツリーで、本物の木です。ドイツでは、クリスマスが終わっても 12/31 くらいまではツリーを飾り続けておくみたいです。



また 12 月 25 日の夜には、おばあちゃんと、ハンブルクからいらしていた娘さんと、今同じように交換留学をしているチェロの加藤さんも呼んで、パーティーをしました。おばあちゃんは前菜からデザートのカッキーやクッキーに至るまですべて手作りして下さり、本当に心の温まる楽しい時間を過ごしました。また、加藤さんのチェロと私のピアノでちょっとしたミニコンサートも開き、おばあちゃんと娘さんは大変喜んでくださいました。

また、2016 年を迎える時は、家でテレビを見ながら大聖堂周辺のライン川の様子を中継で見ていましたが、新年になる 5 分前には至るところで花火が上がり始めていました。日本の、除夜の鐘が鳴るしみりした雰囲気とは大違いで、街じゅうが大騒ぎで夜中の 1 時過ぎまで花火が鳴り止むことはありませんでした。

大晦日には、難民がケルン中央駅で女性を暴行するひどい事件があり、驚きました。ヨーロッパ全体に広がりつつある難民問題や、国際情勢の変動などはドイツに来てからとても身近に感じられ、興味を持つようになりました。世界には様々な事情を抱えて国を離れなければいけない人々も多数いて、音楽を勉強するために自分が今ドイツにいられることに改めて感謝をして過ごして行きたいと思いました。

留学を通して今一番感じることは、自分の個性に自信を持ち、自分の言葉で表現する演奏ができるようになりたい、ということです。レッスンでは、先生はいつも「私はこう言うけれど、あなたが心からそう思わなければ表現できないし、聴衆に伝わることもないからね」とよくおっしゃっていました。まだまだ私は、こう弾いたらどう思われるかとか、こんな感じかな、というような曖昧な考えが多く、もっと自信を持ちたいと思っています。



留学中はいつも日本から家族や先生、友達が応援してくれていて、またケルンで出会った仲間からも多くの刺激と楽しみをもらって、充実した気持ちで帰国することができました。この機会を与えて下さったことに心から感謝しています。ありがとうございました。



リスト音楽院(ハンガリー) 留学報告 Vol.1

音楽学部 器楽専攻ピアノコース 千葉彩奈さん

学校について

私はただいま Part time student として、リスト・フェレンツ音楽院に通っています。Part time student は、単位を取ることができませんが、様々な授業を受講することができます。私が受講しているのは、週 2 回のピアノレッスン、室内楽、音楽のための英語、日本人のためのハンガリー語の授業です。その他にもソルフェージュなどが受講できますが、クラスによっては先生の許可さえ降りれば、BA や MA の授業を受講することもできます。

レッスンは 1 時間ですが、レッスンの回数は 1 回か 2 回か選べます。ただ先生は違う先生です。私は週 2 回選択なので、Körmendy klára 先生、Borbély lászló 先生の 2 人の先生にご指導していただいています。また私は室内楽も 2 つのグループを掛け持ちしているので、週に 2 回室内楽のレッスンも受けています。

留学生については、約 8 割日本人が占めています。そのため日本の方と関わる機会も多く、つい最近新入生歓迎会も行われました。週 4 回の様々なレッスンを受講ことができ、また私生活もとても楽しんでおり、大変充実した日々を送っております。



生活について

言葉はハンガリー語を喋れたら 1 番良いのですが、英語も通じる人は通じます。学校のレッスンは英語で行われております。ハンガリー語はようやく、注文が出来るようになったところです。最初は聞き取るのも大変でしたが徐々に聞き取りだけ是可以るようになり、今凄くハンガリー語の勉強が楽しいです。

そして住居ですが、私は日本人の女性の方とルームシェアしています。大先輩で手続きなど不安な点もサポートしていただき、とても心強かったです。住んでいる場所はメイン校舎から地下鉄と徒歩で約 15 分のところで、住宅街に住んでおります。静かなところなので過ごしやすいですし、音出し時間も 8 時から 20 時までの 12 時間と大変快適です。

少し興味深いところ

まず、交通手段。1 日券や定期を買うとブダペストの主流の地下鉄、路面電車、バスが乗り放題です。月に 9500huf、日本円にして約 5,200 円で行きたい放題です。

次に食事。1 番驚いたことが、アイスコーヒーを注文すると、コーヒーの上に生クリームとアイスがのっていることです。私は甘いもの好きなので、嬉しい誤算でした！もう 1 つ食事で驚いたのが、日本食の店が結構あります。また日本調味料専門店などもあり、とても日本人が住みやすい環境となっております。



リスト音楽院(ハンガリー) 留学報告 Vol.2

11月上旬には先輩にお声を掛けていただき、弾き合い会に参加することができました。留学してから初めて人前で発表する機会ですし、大先輩の前なので大変緊張しましたが、とても勉強になりました。

そして、最近はおperaやコンサートだけでなく、バレエも観劇しました。私が観劇したのは、コッペリアとくるみ割り人形でしたが、どちらも大変素晴らしく感激して泣きそうになってしまったくらいでした。またハンガリーのバレエカンパニーには、私と同年の子が所属しており、大活躍しております。その方の演技を見て、大変刺激を受けました。今月はオネーギンを観劇しに行きたいと思います。

年未年始については、私はハンガリーで過ごしました。ハンガリーのクリスマスは日本でいうお正月みたいなものです。そのためクリスマスはどこのお店も大体営業せずに、家族で過ごすのが一般的です。私はというと、友達数名と私の家で鍋パーティーをしました。クリスマス前にはクリスマスマーケットに行き、ホットワインを飲んだりクルトゥシュカラーチという筒状のパンを食べたり、お祭り気分も楽しみました。そして大晦日はオペレッタ・こもりを観劇。コンサートのシーンではハンガリーの有名なアーティストの方々が演奏し、大変盛り上がりました。1つ驚いたのが、実は年を越した瞬間はまだ公演中だったのです。その際は鐘が鳴り、演者が演技をやめ、お客様が一気に立ち上がり、オーケストラをバックにハンガリーの国歌を歌いました。大変貴重な体験でした。そして公演が終わり外に出ると、みんなお祭り騒ぎ。街行く人たちが仮装をしたり、様々な場所から爆竹が聞こえてきたり、花火があがったりと少し怖かったですが、楽しかったです。

あと約半年で留学は終わってしまいますが、それまでに春の祭典もあり、演奏会やイベントが目白押しで、1月には弾き合い会もあり、勉強する機会がたくさんあります。様々なことに積極的に取り組んで、多くのことを吸収できたらなと思っています。



リスト音楽院(ハンガリー) 留学報告 Vol.3

今回はレッスンについてお話ししたいと思います。私は後期の semester に入ってから、週 2 レッスンと室内楽を取っています。レッスンは第 1 回のレポートに書いていますが、クララ先生とラースロー先生にご指導いただいています。また、室内楽は Miklos Perényi 先生にご指導いただいています。クララ先生のレッスンはとにかく数をこなすというようなレッスンで、毎週のように譜読みをしています。私は 3~4 つのスタイルの曲を準備していきます。また、ラースロー先生のレッスンは、1 つの曲をしっかりと勉強するというようなレッスンで、若い先生なこともあってとてもパワフルで熱く、演奏活動も盛んにしておられる先生です。どの先生も違うタイプの先生なので、レッスンが毎回楽しみです。

そして 1 月中旬にお二方の門下合同のコンサートがありました。私はその際に Mozart のピアノソナタと Debussy の喜びの島を演奏しました。普段マスタークラスやテストの際に使われるステージ付きの教室で演奏しましたが、その教室が素晴らしく、演奏していて本当に楽しかったです。このような機会を与えていただいて、本当に感謝しております。また、2nd semester にも門下のコンサートがあるので、その際には自分の中で掲げた目標を達成できたらいいなと思います。

また室内楽は、ルームシェアしている方と組んでいます。現在は Brahms の cello sonata no.1 を勉強していますが、次はピアノトリオを勉強する予定です。実はブダペストで初めて行った演奏会がペレーニ先生のコンサートで、その時エルガーのチェロコンチェルトを演奏されていましたが、凄く凄く感動し、ブダペストに来てこのような演奏を聴くことができ私は幸せ者だなと思った方でした。本来なら専攻がピアノですので関わることはあまりありませんが、このような貴重な縁があって今受講することができています。

最近、日本人の先輩方の演奏会がいくつかあり、それを聴きに行き日本人の方が作った作品も素敵な作品がいくつもあるなと思ったり、Fazil Say のコンサートに行き衝撃を受けたり、髪を切って思いっきりショックを受けて帰宅したりなど、いろいろ貴重な体験をしています。マンガリツァという豚のフェスもやっていたのでそちらの方も行って見ました。マンガリツァのステーキは最高に美味しいです！来週には伴奏でミシュコルツというハンガリーの地方の方へ初めて行くので楽しみです。

リスト音楽院(ハンガリー) 留学報告 Vol.4

7月9日に無事日本へ帰国しました。そのため、この報告書が最後の報告書となります。

4月から6月にかけては、国境を越えて様々な場所を訪れました。イースターにはウィーンへ行き、シェーンブルン宮殿前で行われていたイースターマーケットを訪れたり、楽友協会へバリトンの方のコンサートを聴きに行きました。ウィーンフィルの演奏はもちろんのこと、バリトンの方の歌が素晴らしく、忘れられないコンサートとなりました。そして、4月中旬からは私が1番楽しみにしていたブダペストの春の祭典！マツエフのラフマニノフピアノコンチェルト3番やラーンキのモーツァルトピアノコンチェルト、エリーナガランチャのカルメンダイジェスト！などなど、毎公演約 200 円で様々な素晴らしいコンサートを聴きに行くことができました。このようなコンサートで毎度感動し、その度に音楽やっていて良かったなあと思いました。



そして5月は、毎週本番があったという本番ラッシュな月でした。ゴールデンウィークは伴奏の仕事でイタリアに行き、そのおまけにミラノを観光することができ、ミラノから帰ってすぐにミシュコルツというハンガリーの地方へ伴奏に行ったり…この本番で興味深い出来事がありました。チェロのオーディションだったのですが、出演者の1人が課題曲の伴奏をしてくれないかと本番直前に頼んできたのです！もう直前だったので、私は頷いたのですが合わせを一回もせず本番を迎えたのは初めてでしたが、とても貴重な勉強をすることができました。そんな経験もヨーロッパならではだと思います。

留學生活最後の月、6月。ここで私は1つ大きな挑戦を試みました。それは自分で企画し、コンサートをするということ。留學生活のまとめにコンサートをどうしても開いてみたかったのです。英語でのやり取りに大変頭を悩ませましたが、なんとか本番を迎えることができました。コンサート本番、演奏についても1つ壁を乗り越えることができたな、と感じることができました。その会場のピアノは実はバルトークが演奏したと言われているピアノで、そのようなピアノで弾くことができたことも良い思い出になりました。

最後に、レッスンについて。私がレッスンで非常に言われたのは、楽譜を隈なく再現するという事です。当たり前だと思われるこの作業、でも実は奥が深く、楽譜を読めば読む度解釈が増えていきます。スラーの書き方1つでさえ、重要なパーツなのです。それに加え、1番大事なのは聴く人にどう伝わるかなのです。ハンガリーで学んだ、全身で音楽を感じ、奏でること、一瞬の油断は音楽にとってあってはならないこと、それらをやりとげる集中力が私には欠けています。帰国してからもその心は忘れずに、素敵な音楽を創り上げられるようになりたいです。

